

## (5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (    は上方に変更、    は下方に変更)。

### 前回からの主要変更点

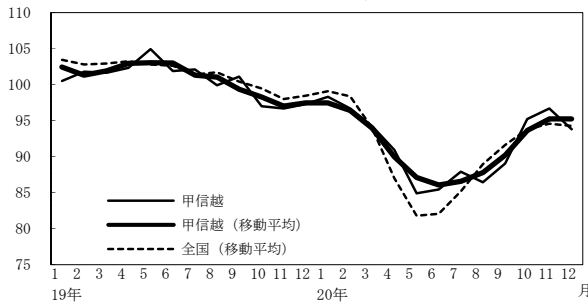
	前回 (令和2年12月)	今回 (令和3年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるが、持ち直しの動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	↑
個人消費	持ち直している	このところ弱含んでいる	↓

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと、「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により、前期比8.5%増となった。

鉱工業生産指数



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。  
 2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。  
 3. 甲信越は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
電子デバ、電気・情報通信	28.9	▲2.5	11.4	11.7	1.4	▲4.4
汎・生産・業務用機械	24.8	▲3.1	14.6	9.7	7.2	▲6.4
食料品・たばこ	12.0	1.0	—	2.1	▲2.1	—
石油・石炭、化学、プラ製品	10.3	3.8	2.1	1.3	▲3.4	1.7
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.8	5.4	7.3	4.3	0.1	▲1.8
鉱工業	100.0	0.8	8.5	7.0	1.6	▲3.0

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
 2. 10-12月期、12月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食料品・たばこは公表されていない。  
 3. 業種は内閣府にて分類

## 2. 個人消費の動向

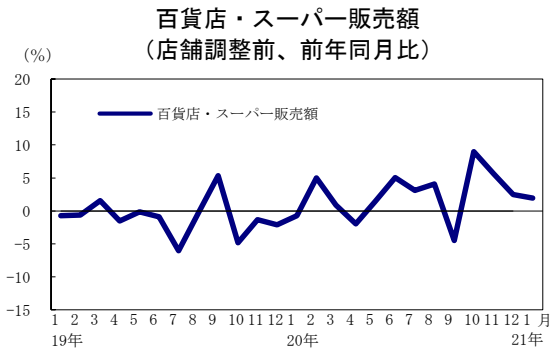
個人消費はこのところ弱含んでいる。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比3.7%増となった。月別にみると、10月は前月比1.5%増、11月は同0.1%増、12月は同0.8%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比5.4%増となった。月別にみると、10月は前年同月比9.0%増、11月は同5.6%増、12月は同2.5%増となり、増加幅が縮小した。



	2020年	2020年		2021年	
	10-12月	10月	11月	12月	1月
RDEI (消費*1)	3.7	1.5	0.1	▲0.8	—
百貨店・スーパー(*2)	5.4	9.0	5.6	2.5	1.9
乗用車(*3)	14.0	25.3	4.7	13.5	4.4
(季節調整値)(*3)	0.8	6.8	▲8.5	4.7	▲2.1

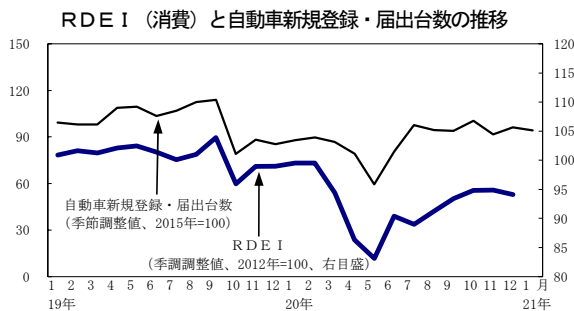
(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

2021年1月は速報値。

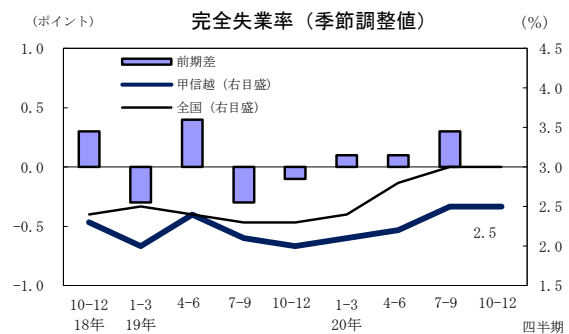
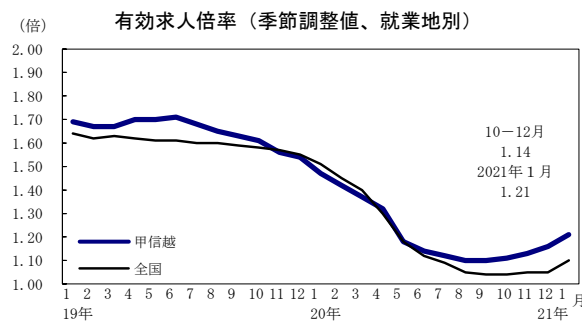
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 内閣府にて算出、季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年1月調査) 景気判断理由の概要

5. 甲信越

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	×	・Go Toキャンペーンの中止や緊急事態宣言再発令で、人の流れが止まってしまっている。店舗売上は前年の3分の1に届かない(商店街)
		・年初からの大雪、再度の緊急事態宣言等の影響もあり、来客数が激減し、新車販売も需要期らしい伸びがない(乗用車販売店)
		・異動のシーズンを控えており、人の動き自体は活発になる。ただ、特別に上向く要素も少ないため、現時点では横ばい状態である(通信会社)
	×	・観光客が来ないので、飲食店、ホテル等からの発注が上がってこない。スーパーも落ち着いている状態が続いている(食料品製造業)
		・外出自粛や時短営業など様々な取組をしているなかで、経済活動としての受注量は減っている。新型コロナウイルス感染拡大防止と経済とのバランスは非常に難しく、取引先も憂慮している(新聞販売店[広告]) ・当社の業況アンケート調査によれば、企業の景気感は前期に比べ大幅に改善している。業種別でも製造、非製造業共に、改善している(金融業) ・新型コロナウイルスの感染状況がみえないなかで、現状維持がしばらく続きそうである(建設業)
雇用関連	・小規模事業所を中心に雇用調整助成金の利用は多く、全体として求人数に大きな変動はない(職業安定所) ・新型コロナウイルスの影響により、周辺企業の求人は大きく減少している。介護、福祉業界では、現在でも募集広告を掲載している企業はある(求人情報誌制作会社)	
その他の特徴コメント	：今月は大雪の影響もあり、売上、来客数共に減少している(家電量販店) ×：都市部の緊急事態宣言の再発令と地方の新型コロナウイルス感染拡大により、スキーシーズンだが来客数は激減している(観光名所)	
先行き		・新型コロナウイルスに伴う企業業績の悪化や個人の収入減少が、より明確になる(住宅販売会社)
		・新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着き、ワクチン接種がスムーズに進めば、景気回復に向かうのではないかと(高級レストラン)
	×	・受注予想が立たない。ワークショップ展開もしているものの、新型コロナウイルスの収束がみえなければ、入っている予約すらあてにならない。過去最低の事業内容である(窯業・土石製品製造業)
		・前年の緊急事態宣言解除後は反動買いもあった。今は2月の緊急事態宣言解除が予定どおり行われるかどうかや、Go To Travelキャンペーンの再開がいつになるか等、未知数の課題が多く、客に積極的にアプローチできる状況にない。展示会も直前に中止になる場合もあるので、十分な準備もできない(その他製造業[宝石・貴金属])
	雇用関連	・求人は増えつつあるが、正社員求人が停滞している。パート、アルバイト等で乗り切ろうという企業の姿勢が目立ち始めている(民間職業紹介機関)
その他の特徴コメント	：近い将来、新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、効果が出れば、必ず景気は上向く(スーパー) ×：年度末を迎えるが、年度末の入札案件等が本当に少なくなってきてしまっている。先行きが不安である(出版・印刷・同関連産業)	

(D I) 現状・先行き判断D I (甲信越)の推移(季節調整値)

